

# 天理市

## 朝和・柳本校区を中心とした南部地区

### まちづくり基本構想

平成28年3月



# 基本構想策定の背景

柳本・朝和校区を中心とする市南部地区は、桜井市の巻向・穴師地域、田原本町の鍵・唐古地域と隣接し、大和の源流として日本の原風景とも言える景観・風情を感じられる地域である。

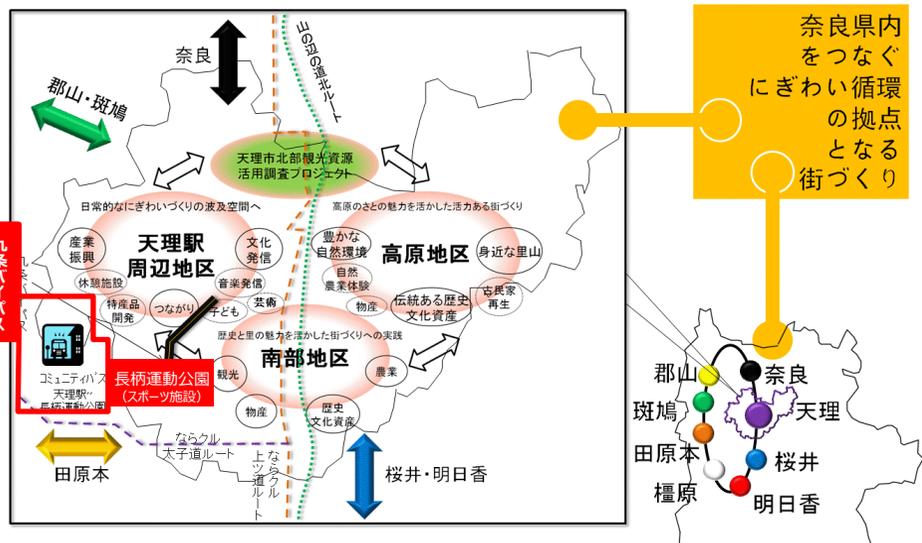
最古の道の一つである山の辺の道をはじめ、黒塚古墳、崇神・景行天皇陵など歴史的に重要な古墳等の遺跡が数多く残っており、ちゃんちゃん祭などの無形の伝統文化や大和青垣の自然、その裾野で営まれる昔ながらの暮らしが地域の最大の魅力である。

しかしながら、その魅力を内・外に発信できておらず、十分に活かし、高めることができていないのが現状である。

平成26年度より、各地域の課題を解決するため、市内3地区において天理市まちづくり協議会を発足させ、その1地区として当地区において住民・地域活性化団体等とともに、裾野を広げた取組を行いながら目指す姿を共有してきた。今般、再認識を図るため基本構想を策定する。

## < 天理市のまちづくりの基本イメージ >

### 天理市×周辺市町村にぎわい循環 MAP



# 基本構想の位置づけ

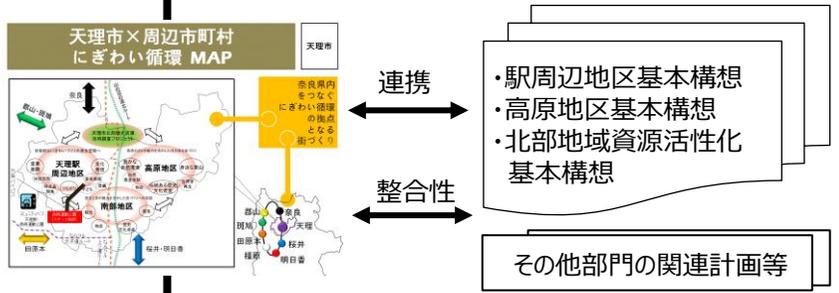
**天理市総合計画**  
平成22～31年度までの10年間を計画期間として、めざすべき都市像「つながり・にぎわい・未来を創造するまち」の実現に向けて定められた長期的かつ総合的な計画

**天理市 まち・ひと・しごと創生総合戦略**  
本市が安定した人口構造を保持し、若い世代を中心に将来にわたって市民が安心して働き、希望に応じた結婚、出産、子育てができる地域社会の構築を目指し、地方創生に意欲的に取り組むための指針

**天理市 都市計画マスタープラン**  
都市計画法に基づき、目指すべきまちの将来像とその実現に向けたまちづくりの基本的な方針・都市計画を展開する指針

- 全体構想
  - ・都市づくりの理念と目標
  - ・将来の都市構造のあり方
  - ・都市整備の方針
- 地域別構想
  - ・まちづくりのテーマ
  - ・まちづくりの方針

### 県と天理市とのまちづくり包括協定



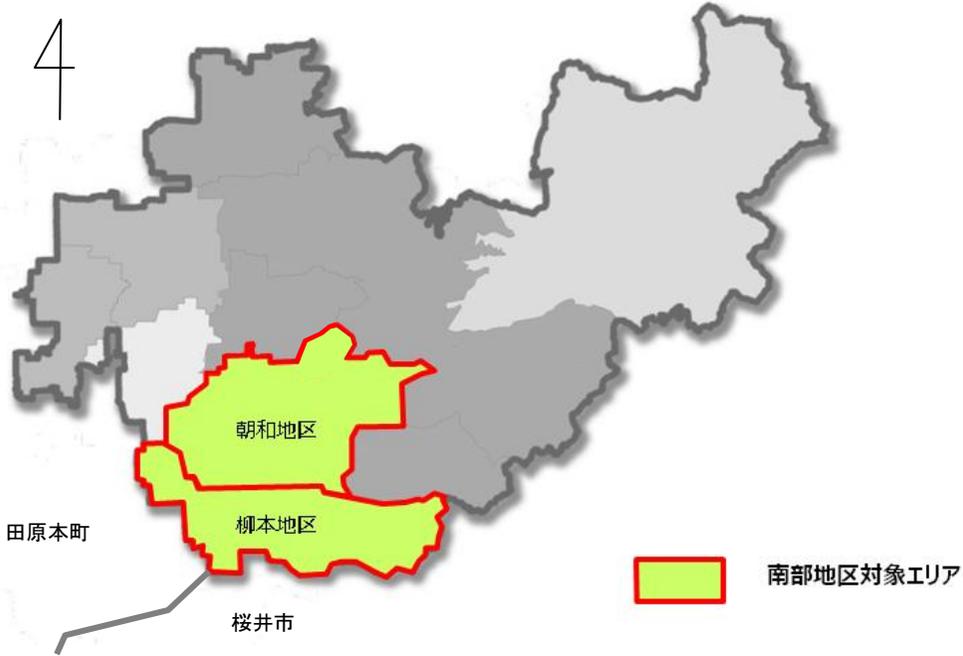
南部地区まちづくり基本構想 P 2 へ

# 【1】基本構想の概要

## (1) 基本構想策定の目的

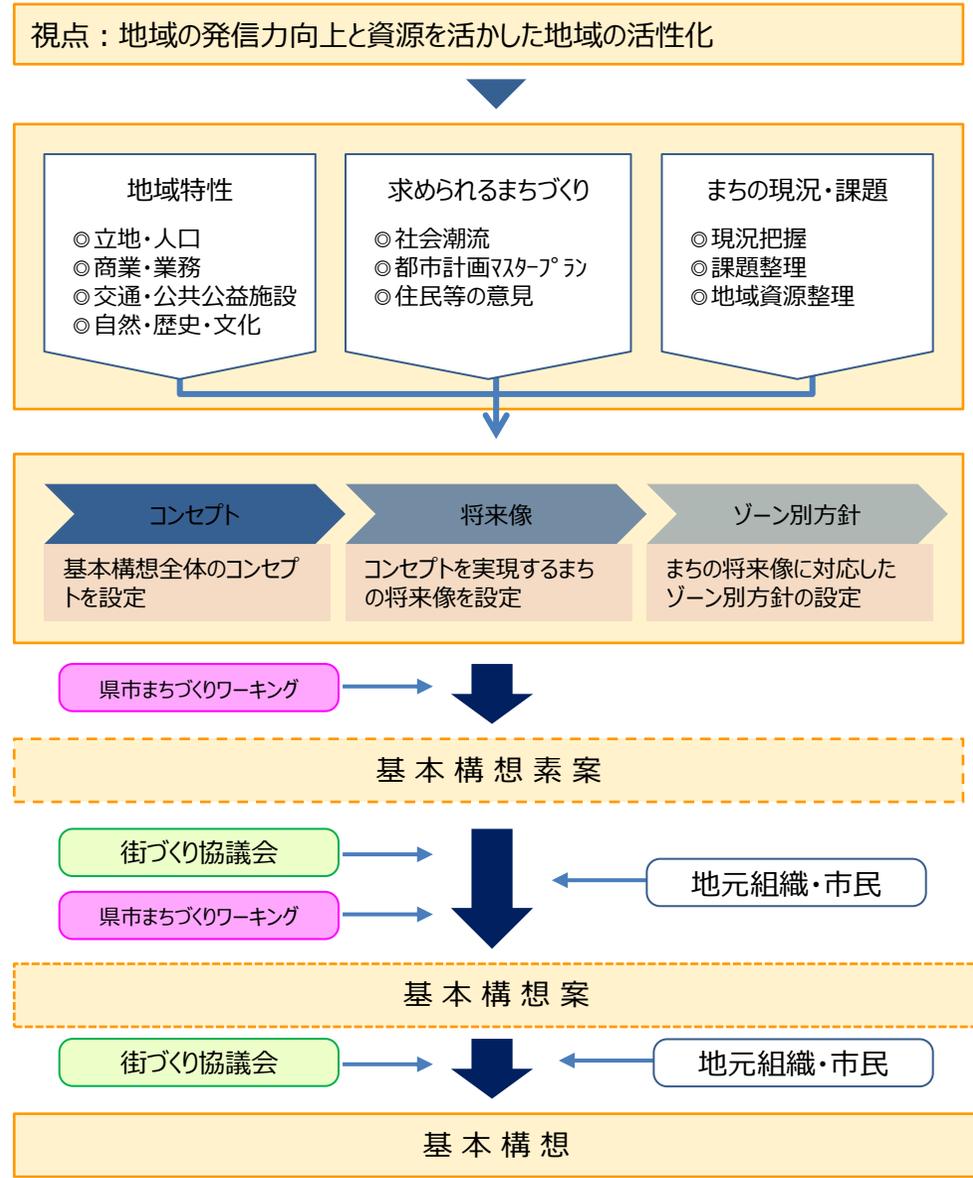
- ◆ 将来ビジョンの共有  
市民・事業者・行政などが協働してまちづくりを推進するため、将来ビジョンを共有する。
- ◆ 将来ビジョンの実現  
地区が抱える課題や長期的な展望を踏まえた総合的な計画を立て、本市の核にふさわしい“にぎわい”と“やすらぎ”を感じるまちづくりを実現する。

## (2) 対象区域



柳本小学校区、朝和小学校区を基本エリアとし、隣接する桜井市の巻向・穴師地域、田原本町の鍵・唐古地域とも連携をすすめる。

## (3) 基本構想策定の流れ



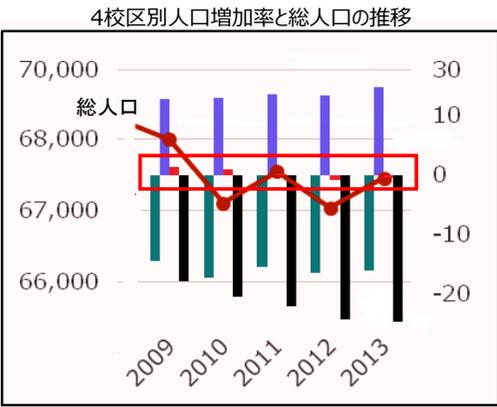
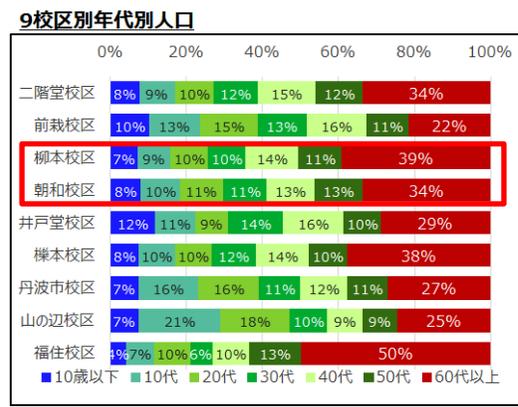
# 【2】地区の現状

## (1) 立地・条件

- ◆市南部地区は、奈良県北部の大和高原西部の裾野から大和野野中央東部を中心としたエリアに位置する。大阪市の中心から30km圏にあり、西名阪自動車道天理 I Cより車で約15分の距離にある。
- ◆約28大字により構成され、広さは約17km<sup>2</sup>。
- ◆国道169号、J R万葉まほろばのほか、山の辺の道、上ツ道が縦断する。



- ◆人口は平成27年で14,545人であり、他地区に比べ穏やかではあるが減少傾向にある。
- ◆世帯数は平成27年で5,740世帯であり、増加傾向にある。
- ◆人口の年齢構成では、高齢化率は平成27年で28.0%であり、4地域の中では比較的高齢化が進んだ地域となっている。



## (2) 産業

- ◆地域の主要産業は農業であり、山裾の樹園地では朝和地区発祥の刀根早生を含む柿が広く栽培されている。また、平野部では水稻栽培のほか、本市の主要作物であるイチゴ、トマト、ナス等の施設園芸栽培が盛んである。その他、多岐にわたる作物の栽培実績があり、豊かな農産物は地区の大きな魅力となっている。
- ◆他の産業として、木材製材業者が一部工業団地を形成している。また、伝統的な蚊帳生地の生産・加工や、お麩、素麺の生産のほか、近年では 営農組合や農家団体による加工品の開発の取り組みも広がってきている。



柿



イチゴ



ナス



トマト



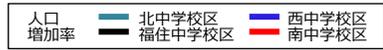
味間いも・卑弥呼みそ (南檜垣営農組合)



地域特有の製品 (素麺、蚊帳生地、麩 など)

・「天理市 町別年齢別人口(H27.6)」資料を基に作成

平成27年「天理市 町別世帯数及び人口」より作成



## 【2】地区の現状

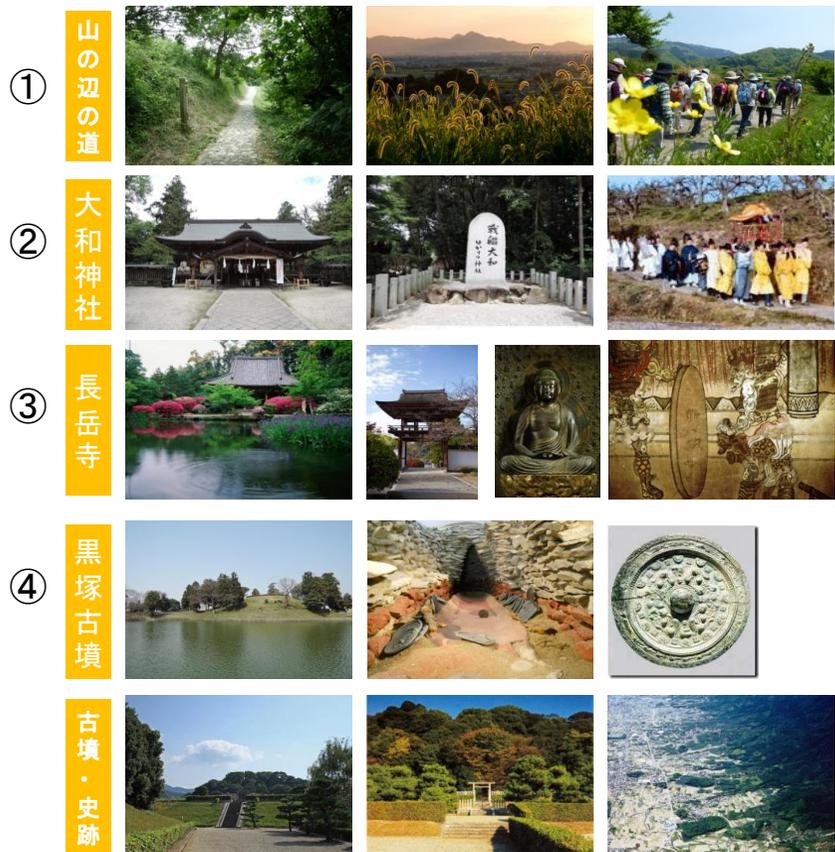
### (3) 交通・公共公益施設



- ◆ J R万葉まほろば線（桜井線）が地域を縦断しており、朝和・柳本地区それぞれに駅があり住民の通学・通勤等に利用されている。
- ◆ 市立の中学校が1校、小学校及び保育所が各地域に設置されている。
- ◆ 公共施設として長柄運動公園、トレイルセンター等がある。

### (4) 歴史・伝統文化

- ①青垣の裾野に横たわる山の辺の道は日本最古の道の一つとされ、自然と日本の原風景は年間7万人のハイカーを楽しませている。
- ②戦艦大和の守護神でもあった大和神社では、ちゃんちゃん祭が有名で、氏子の村々をねり歩く御渡りが春の風物詩となっている。
- ③長岳寺は824年弘法大師により創建。鐘楼門及び玉眼の本尊は日本最古のものとされる。大地獄絵図、四季の花の寺としても有名。
- ④黒塚古墳では平成9年に三角縁神獣鏡33面等がほぼ副装時の形で出土し、一躍脚光を浴びた。



### 【3】地区の現状・課題とまちづくりの目標

	南部地区の現状	課題	取組方針	既存の取り組み								
人口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少</li> <li>・高齢化の進行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のリーダー、若い世代の減少</li> <li>・介護等の必要性、交流機会の減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域リーダーの育成と若年層の参画</li> <li>・高齢化に対応する健康づくり拠点の整備。地域交流を通じた介護予防</li> </ul>	<table border="1"> <tr> <td>奈良県</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山の辺の道地域づくり協議会（柿の木オーナー制度、農村イベント）</li> <li>・記紀万葉プロジェクト</li> <li>・植栽計画に基づく彩りの魅力づくり</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>地域</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○南檜垣宮農組合</li> <li>・低農薬の特別栽培と高効率な農業生産</li> <li>・消費者との農業体験 ・6次産業化</li> <li>○山の辺の道周辺農村づくりネットワーク</li> <li>・朝市、収穫体験、6次産業化</li> <li>○自治会 等</li> <li>・祭、伝統・文化行事、まちづくりマップ</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>市</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光振興イベント（てくてくウォーク等）</li> <li>・観光情報発信</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>etc…</td> </tr> </table>	奈良県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山の辺の道地域づくり協議会（柿の木オーナー制度、農村イベント）</li> <li>・記紀万葉プロジェクト</li> <li>・植栽計画に基づく彩りの魅力づくり</li> </ul>	地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>○南檜垣宮農組合</li> <li>・低農薬の特別栽培と高効率な農業生産</li> <li>・消費者との農業体験 ・6次産業化</li> <li>○山の辺の道周辺農村づくりネットワーク</li> <li>・朝市、収穫体験、6次産業化</li> <li>○自治会 等</li> <li>・祭、伝統・文化行事、まちづくりマップ</li> </ul>	市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光振興イベント（てくてくウォーク等）</li> <li>・観光情報発信</li> </ul>		etc…
奈良県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山の辺の道地域づくり協議会（柿の木オーナー制度、農村イベント）</li> <li>・記紀万葉プロジェクト</li> <li>・植栽計画に基づく彩りの魅力づくり</li> </ul>											
地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>○南檜垣宮農組合</li> <li>・低農薬の特別栽培と高効率な農業生産</li> <li>・消費者との農業体験 ・6次産業化</li> <li>○山の辺の道周辺農村づくりネットワーク</li> <li>・朝市、収穫体験、6次産業化</li> <li>○自治会 等</li> <li>・祭、伝統・文化行事、まちづくりマップ</li> </ul>											
市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光振興イベント（てくてくウォーク等）</li> <li>・観光情報発信</li> </ul>											
	etc…											
農業・産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の主要産業は農業（柿、イチゴ、トマト、ナス、水稻など）</li> <li>・製材、蚊帳生地製造、運輸業など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耕作放棄地拡大、後継者不足</li> <li>・産地としてレベルが高いが、知名度／ブランド力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊休農地の解消及び利活用</li> <li>・農ある暮らしの魅力発信</li> <li>・農産品や個々の製品の魅力をつなぐブランド化</li> </ul>									
生活・交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝和・柳本地区それぞれに駅あり</li> <li>・小中学校、総合運動公園、トレイルセンター等の公共施設が多い。</li> <li>・169号線の車の往来は非常に多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通機関の衰退化</li> <li>・他の地区とのアクセスが弱い</li> <li>・通過車両が多く、立寄りが少ない</li> <li>・公共施設の活用不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光交流人口の増加による公共交通機関の活用</li> <li>・立寄り観光のための可視化とP R</li> <li>・既存施設の利活用促進</li> </ul>									
歴史・伝統文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山の辺の道や黒塚古墳など歴史的に重要な遺跡が数多く残っている。</li> <li>・ちゃんちゃん祭などの無形伝統文化</li> <li>・大和青垣の自然、昔ながらの営み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光資源が点在化による連携不足</li> <li>・農村景観を魅力に活かせていない。</li> <li>・いいもの、場所は多いが地域として認知度が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光資源を結び、周遊観光によるヒト・モノの循環の創出</li> <li>・農村景観、歴史風情を活かしたストーリー性のあるP R</li> </ul>									

**コンセプト** 【 物産（産業）・観光・農業 × 歴史・文化遺産・さとの街づくり 】

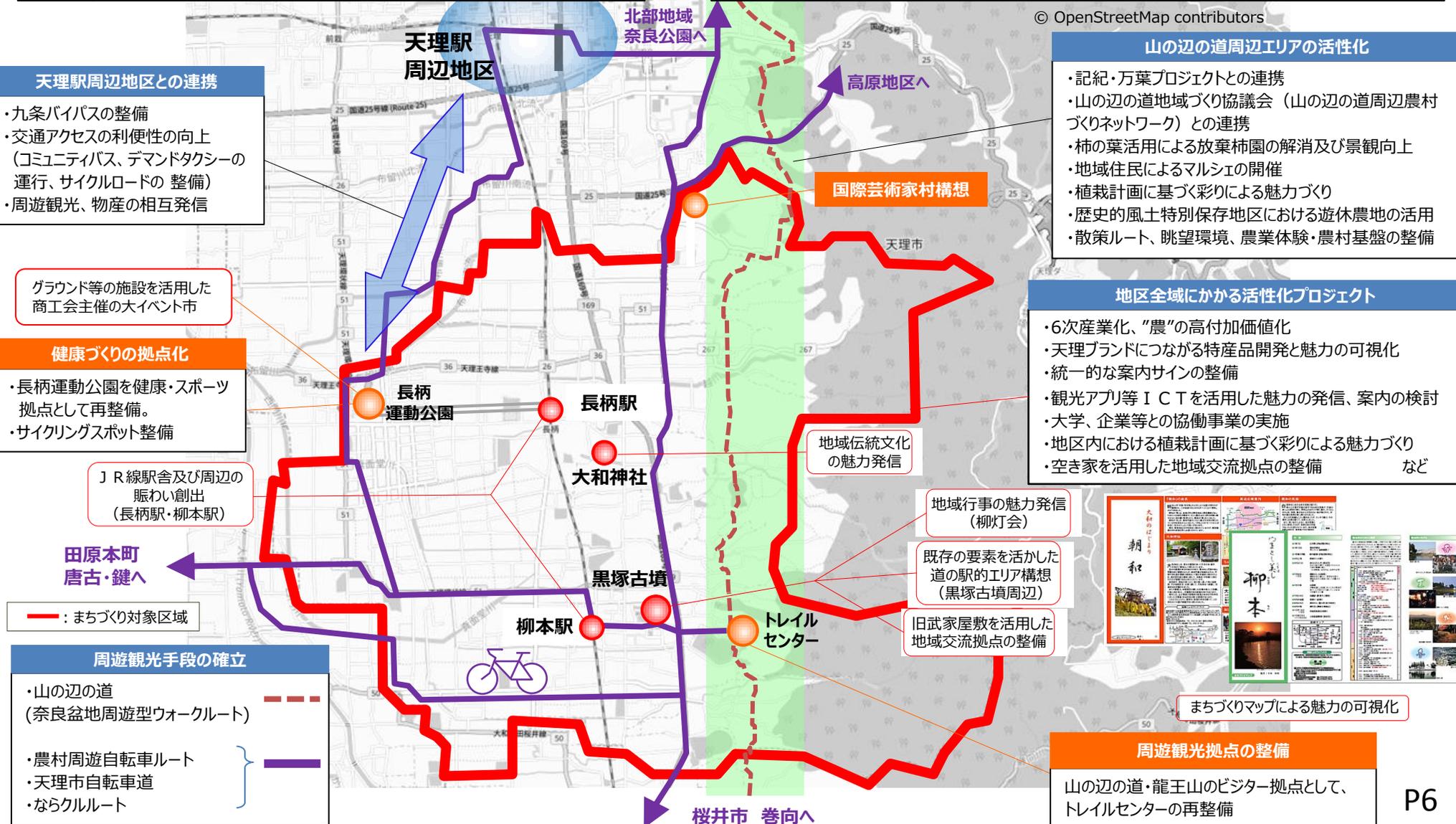
**目標** 【 地域の観光資源・取り組み・いいものをつなぎ合わせ、“面”での魅力強化 】

- |             |                  |   |
|-------------|------------------|---|
| <b>基本方針</b> | <b>1 拠点強化</b>    | 多種多様な観光資源が点在することを強みと捉え、それぞれの機能や魅力を高めることで、地域全体の底上げを行う。     |
|             | <b>2 つながり強化</b>  | 地域の団体や県、隣接市町村との連携を強化し、それぞれの取り組みをつなぎ合わせることで、一体的な魅力の向上を図る。  |
|             | <b>3 ブランド力強化</b> | 地域の伝統文化や農産物、加工品・製品等の既にあるいいものを、地域を印象付けるブランドアイテムとして発信・昇華する。 |

# 【4】まちづくり構想図

## ～ 物産(産業)・観光・農業 × 歴史・文化遺産・さとの街づくり ～

現状課題	南部地区には、山の辺の道をはじめ黒塚古墳、崇神・景行天皇陵など歴史的に重要な史跡が数多くあり、ちゃんちゃん祭などの無形伝統文化や昔ながらの農の営み、日本の原風景ともいえる大和青垣の景観が大きな魅力である。しかし、各資源のつながりづくりや可視化ができておらず、地域全体として魅力を十分に活かしきれていない。		
基本目標	地域の観光資源・取り組み・いいものをつなぎ合わせ“面”での魅力強化	取組方針	○拠点強化・・・既存施設の機能強化、 ○つながり強化・・・地域・自治体間の連携強化 ○ブランド力強化・・・伝統文化や物産の発信強化



© OpenStreetMap contributors

**天理駅周辺地区との連携**

- ・九条バイパスの整備
- ・交通アクセスの利便性の向上 (コミュニティバス、デマンドタクシーの運行、サイクルロードの整備)
- ・周遊観光、物産の相互発信

**山の辺の道周辺エリアの活性化**

- ・記紀・万葉プロジェクトとの連携
- ・山の辺の道地域づくり協議会 (山の辺の道周辺農村づくりネットワーク) との連携
- ・柿の葉活用による放棄柿園の解消及び景観向上
- ・地域住民によるマルシェの開催
- ・植栽計画に基づく彩りによる魅力づくり
- ・歴史的風土特別保存地区における遊休農地の活用
- ・散策ルート、眺望環境、農業体験・農村基盤の整備

グラウンド等の施設を活用した商工会主催の大イベント市

**健康づくりの拠点化**

- ・長柄運動公園を健康・スポーツ拠点として再整備。
- ・サイクリングスポット整備

**地区全域にかかる活性化プロジェクト**

- ・6次産業化、“農”の高付加価値化
- ・天理ブランドにつながる特産品開発と魅力の可視化
- ・統一的な案内サインの整備
- ・観光アプリ等ICTを活用した魅力の発信、案内の検討
- ・大学、企業等との協働事業の実施
- ・地区内における植栽計画に基づく彩りによる魅力づくり
- ・空き家を活用した地域交流拠点の整備 など

J R線駅舎及び周辺の賑わい創出 (長柄駅・柳本駅)

地域伝統文化の魅力発信

地域行事の魅力発信 (柳灯会)

既存の要素を活かした道の駅的エリア構想 (黒塚古墳周辺)

旧武家屋敷を活用した地域交流拠点の整備



**周遊観光手段の確立**

- ・山の辺の道 (奈良盆地周遊型ウォークルート) ---
- ・農村周遊自転車ルート ---
- ・天理市自転車道 ---
- ・ならクルルート ---

まちづくりマップによる魅力の可視化

**周遊観光拠点の整備**

山の辺の道・龍王山のビジター拠点として、トレイルセンターの再整備

## 【5】具体的な取り組み

### 1 拠点強化

多種多様な観光資源が点在することを強みと捉え、それぞれの機能や魅力を高めることで、地域全体の底上げを行う。

#### トレイルセンター

- ・山の辺の道の休憩施設機能の充実のため、市及び周辺地域の情報発信拠点、青垣最高峰の龍王山の登山口、地域の憩いスペースとして必要な機能を付加。
- ・天理市ブランディングプロデューサーであるgraf 服部氏による内装デザインを基に、平成29年4月新規オープンに向けて整備予定。

#### 黒塚古墳周辺

- ・柳本駅と山の辺の道の間位置し、住民の共通の誇りである黒塚古墳を中心に、旧武家屋敷(空き家)を活用した地域交流サロンの設置や柳本公園のベンチや案内板、植栽等の配置、黒塚古墳駐車場の活用促進等について、住民・関係団体と分会を実施し、エリア基本構想に基づいた整備を進める。

#### JR万葉まほろば線駅

- ・長柄駅用具倉庫及び駅前スペースを活用し、『朝和ものづくりマルシェ』等、地域の魅力や産業を発信するイベントを企画する。
- ・柳本駅舎スペースについて、所有管理者であるJRとの協議により、観光シーズン中の定期的なイベント開催やハイカーへのもてなし案内を検討する。

#### 長柄運動公園

- ・健康・スポーツをテーマに他世代が交流する、南部地区をはじめとした市全体の健康づくり・総合スポーツ拠点として整備を進める。
- ・トレイルセンターの対角に位置する周遊観光拠点として、サイクルステーションや相互の情報発信を実施する。



機能強化 (イメージ)



特産品の販売・発信



サイクルスポット



黒塚古墳



空き家の活用



既存施設の活用



駅舎スペースの活用



長柄駅



柳本駅



スポーツ・健康づくりの拠点化

2 つながり強化

地域の団体や県、隣接市町村との連携を強化し、それぞれの取り組みをつなぎ合わせることで、一体的な魅力の向上を図る。

①地域・自治体間の連携強化

天理駅周辺地区とのつながりを強化

- ◆九条バイパスの整備  
(H27年度新規事業化)
- ◆交通アクセスの利便性の向上  
(コミュニティバス、デマンドタクシーの運行)
- ◆天理市自転車道の整備
- ◆周遊観光、物産の相互発信



桜井市・田原本町とのつながりを強化

- ◆近接する桜井市の纏向や田原本町の唐古・鍵地域は、歴史的にも関係性が強く、一体的なブランド化の検討。
- ◆連携を密に進めるため、2市1町による検討会議を設置し、定期的な意思・情報共有を図る。
- ◆サイクルルートを含めた地域間の移動手段を検討し、相互に人の流れが生まれるような事業を検討・実施する。



②拠点間の周遊手段の確立

ウォーキング／ハイキング

- ◆山の辺の道（奈良盆地周遊型ウォークルート）  
⇒認知度の更なる向上と、“実際に来てもらう”事業展開
- ◆各周遊拠点において、そこからの距離・所要時間ごとに最適なルートを統一的な案内サインにより提案する。

サイクリング

- ◆天理駅前広場にオープンするサイクルカフェをはじめ、トレイルセンターや長柄運動公園といった市内各所の周遊観光拠点において、スタンド・軽整備工具等を配備したサイクルスポットを整備し、サイクリストフレンドリーな周遊観光を提案する。
- ◆奈良県が進めるならくるルートや農村周遊自転車ルートに加えて、九条バイパスに並行する河川敷を天理市自転車道として整備し、自転車による市内循環を促進する。



3 ブランド力強化

地域の伝統文化や農産物、加工品・製品等の既にあるいいものを、地域を印象付けるブランドアイテムとして発信・昇華する。

農業・農村の魅力づくり

- ◆奈良県の記紀・万葉プロジェクト、山の辺の道地域づくり協議会（山の辺の道周辺農村づくりネットワーク）、植栽計画等の広域的な取り組みに沿ったプロジェクト展開を行い、地域のもつ魅力を奈良県全体の魅力にのせ、より効果的な事業の実施・PRを行う。
- ◆地域住民による6次産業化や朝市の取り組み支援に加えて、てくてく天理ウォーキングフェスタ等、リピーター率の高いイベントに合わせた収穫体験などを企画し、来訪者が農の魅力に触れる機会を広く創出する。
- ◆遊休農地の活用や散策ルート、眺望環境を整備し、地区の最大の魅力の一つである昔ながらの農村景観や風情の維持・向上を図る。
- ◆山の辺の道沿いの放棄柿園の解消と柿の葉を活用した新たなビジネスモデルの展開。



柿の木オーナー制度



地域団体による収穫体験

歴史・伝統文化の発信

- ◆数多くの古墳等の史跡や大和神社・長岳寺といった寺社仏閣を、周遊観光でつなぎ、ストーリー性のある観光提案・発信を行う。
- ◆古くから行われている地域の祭りや文化行事について、伝統や地域の思いを大切にしながらも、その魅力を内外に広く発信し、参加型の行事化や伝統の継承・保存に向けた取り組みを展開する。



古き良き農村景観



地元野菜の朝市（柳本マルシェ）

官民連携による取り組み

- ◆地域の事業者による地区特産品の開発支援や6次産業化を支援
- ◆観光アプリ等ICTを活用した魅力の発信・案内の検討
- ◆大学、企業等と協働による専門知識を活かした事業の実施
- ◆黒塚古墳周辺において、既存の要素を活かし、道の駅と同等の機能を持つエリアとして整備を目指す。



ちゃんちゃん祭（大和神社）



柳灯会（黒塚古墳周辺）